

サークル 見聞録



劇評 演劇研究会 ボクナリ旗揚げ試演会 至極真っ当な彼女は天命を行く

(11月 4~ 8日 @大隈講堂裏劇研アトリエ)

ついに満を持して劇研に新たなアンサンブルが誕生する、その瞬間を目撃したいと思ひ隈裏に足を運んだ。ストーリーは、とある中学校を舞台として、「タイムマシンをつくる」というまっすぐな情熱に燃えるヒロインと、彼女に魅かれ(巻き込まれ)集まった仲間たちのビルドアップスロマン。随所にちりばめられたドラクエの世界観が郷愁を誘う。

タイムマシンをつくる目的はそっちのけで学園生活を謳歌する彼・彼女らにも、受験という現実が待ち受ける。一人一人去っていく仲間たち。一人残されたヒロインと、彼女のおかげでいじめられっ子から抜け出すことができた主人公の男子との会話が印象に残った。タイムマシンはできなかったけど、つくる過程で僕たちは自分たちの未来と現実に向き合うことができた、それでいいじゃないかと。「それはきれい事だ」とつぶやくヒロイン。そして彼は夢を追い続けタイムマシンを完成させる。

私はこの劇を、一つの劇団の立ち上げに関するメタファーとして観た。学園物を中心に、青春の葛藤やコンプレックスを愛情込めて描いてきた彼らが、新たな舞台でどんなテーマに挑戦していくのか期待している。

(国際問題研究会・球)

次回公演

露と枕 vol.0『白に色づく』

12月 7日(木)~ 11日(月)
大隈講堂裏劇研アトリエ



【作・演出】井上瑠菜
【出演】

小林桃香・澤あやみ・月館森・中野華子・川久保晴
奥泉・佐藤ひかり

【料金】自由設定制

【予約】 http://stage.corich.jp/stage/87124/ticket_apply

【お問い合わせ】 tsuyumakura@gmail.com

080-5632-3822

	12/7 木	12/8 金	12/9 土	12/10 日	12/11 月
14: 30			●	●	
19: 00	●	●	●	●	●

開場は開演の30分前です。

サークル 見聞録



演奏会評 マンドリン楽部 マンドリンミニコンサート (11月5日 @大隈講堂地下ホール)

早稲田祭がクライマックスを迎えた2日目の夕方、喧騒に包まれた大隈講堂前とはうってかわって、穏やかに柔らかな空気が流れる大隈講堂地下ホールでマンドリン楽部のミニコンサートは始まった。

前半は「アンサンブルステージ」。マンドリンとギターの男性二人組が奏でる「Danza Spagnola」は、マンドリンとギターのソロとデュエットがリズムカルに繰り返され、それぞれの楽器の魅力が存分に味わえた。二人とも一年生だということにも驚かされた。

後半は「合奏ステージ」。「となりのトトロメドレー」の「風の通り道」は、マンドリンの細やかな音色が夏の田舎道を吹き抜ける爽やかな風を感じさせた。「伊太利民謡集」の「フニクリ・フニクラ」は、青く突き抜けるような晴天のもとで陽気に踊るイタリアの人々が眼に浮かんできた。マンドリンという楽器は、聴く人に曲の情景を想起させる力を持っていると思う。騒々しい毎日にお疲れの方に、時には優しくて儂いマンドリンの音色に耳を傾けてみることをお勧めする。

(現代思想研究会・奏)

次回演奏会

第199回定期演奏会

【日時】2017年12月15日(金) 18:30開場 / 19:00開演

【会場】川口総合文化センター リリア メインホール

(JR京浜東北線「川口駅」より徒歩約1分)

【曲目】

< 第 部 >

歌劇「フィガロの結婚」序曲 W.A.モーツァルト (編曲 赤城淳)

劇付随音楽「ロザムンデ」間奏曲第3番 F.シューベルト (編曲 中居詢子)

皇帝円舞曲 J.シュトラウス2世 (編曲 伊藤敏明)

< 第 部 >

交響曲第4番「イタリア」第1楽章 F.メンデルスゾーン (編曲 田野井蔵人)

交響曲第1番 第3・4楽章 J.ブラームス (編曲 進藤知哉・久松祥三)

【チケット】前売券500円 当日券800円 全席自由

【チケット予約フォーム】<http://www.wasedamando.in.net/>

【お問い合わせ】090-3498-2270(市丸泰樹) waseda_mando.in@yahoo.co.jp



寄稿

PUGMENT特別講義 「精神的運動着論」 を開催して

繊維研究会幹事長 大和佳克



当日の会場のスナップ。大和さんは
パネラーとしても登壇（写真右端）。

繊維研究会は、10月29日、ファッションレーベル「PUGMENT」の今福華凛さんと大谷将弘さんをお招きし、特別講義を行っていただきました。講義内容としては、PUGMENTの作品がどのようなプロセスを経て実現化されたのか、また、その制作過程でお二人が影響を受けたアーティストや社会的な動向など。講義を通して、一つの作品は多元的なものなんだな、ということを実感いたしました。

後半は、キュレーターの飯岡陸さんと当サークル代表の大和を交えて質疑応答を行いました。会場からの鋭い質問も手伝って、これまで言語化されていなかったPUGMENTの制作意図が浮き彫りになったと思います。

より広く「ファッション」を捉え活動しているお二人の講義と、美術の文脈から応答する飯岡さんの切り込みが、作品についてのスリリングなやりとりを生み、たいへん勉強になりました。ひるがえってまたPUGMENTの作品について考えたいくなるような、意義深いイベントでした。

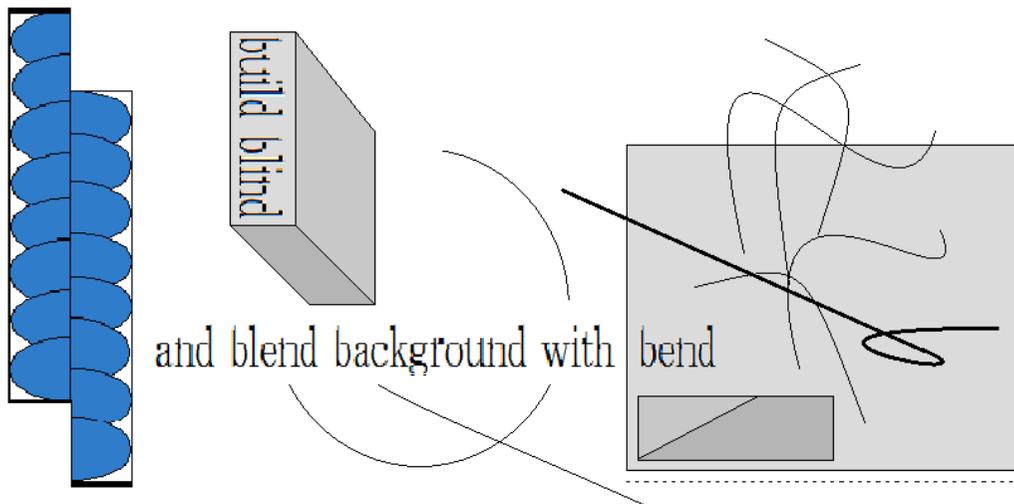


編集部より 繊維研究会幹事長・大和佳克さんから、10月29日に学生会館W406-407号室で開催した講演会の報告文を寄せていただきました。

同会主催で12月10日に開催されるファッションショー「build blind and bend background with bend」のお知らせとともに掲載させていただきます。

繊維研究会ファッションショー

「 build blind and blend background with bend 」



音楽 食品まつり a.k.a. foodman 写真 北村尚



2017.12.10 (sun)

open 14:30 start 15:00

open 17:30 start 18:00

at BUoY 北千住アートセンター

〒120-0036 東京都足立区千住仲町49-11
東京メトロ千代田線・日比谷線 / J R常磐線 康武スカイツリーライン
「北千住」駅出口1より徒歩6分、西口より徒歩8分

入場無料・予約制

定員に達したため一次予約の受付を終了いたしました。若干名ですが二次予約を予定しておりますので、今しばらくお待ちください。予約情報につきましては随時 Tw itter(https://twitter.com/sen_lab)をご覧ください。

「コレクションレポートやブランドのルック写真のほとんど、ストリートスナップ、姿見において衣服の背面は場所を持っておらず、それは死角に位置しています。なので今、こうした状況に対して、いや、こうした状況を転用して、背面に息が通う別の状況を設立してみよう、というのが今回のショーになります。

配置の慣わしによって次第にできた相互的な規定関係をずらし、閉鎖には換気口を、そしてそこへ向かおうと体の方向を変えると同時に意味もまた変わるような束の間のロールプレイングに、是非とも居合わせてください。」
幹事長・大和さんのコメント (READY TO FASHION MAGのHP [https://www .readytofashion .jp/](https://www.readytofashion.jp/)より)

文化の案内板

演劇



舞台美術研究会 秋季研究会公演 アンネ・フランクの七~~五~~七の憂鬱

日時 12月1日(金)~3日(日)
会場 学生会館B203

	12/1 金	12/2 土	12/3 日
13:00		●	●
18:00			
19:00	●		

終演後ネタ大会あり



【主宰】早野宏美

【台本・演出】川口コウ

【出演】小川葉、高木陽介、武村理子(劇団木霊)

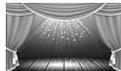
【料金】フリーカンパ制

【予約】<https://ticket.corich.jp/apply/86719/002/>

【お問い合わせ】

akiken2017@gmail.com 08026715285(制作直通)

演劇



劇団木霊 2017年12月企画公演 『Help!』

日時 12月15日(金)~18日(月)
会場 大隈講堂裏劇団木霊アトリエ

	12/15 金	12/16 土	12/17 日	12/18 月
14:00			●	
19:00	●	●	●	●

未就学児のご入場はご遠慮ください。
開演 45分前より受付開始、30分前より開場となっております。

【脚本・演出】小池彩水

【出演】笠原成歩、高嶋友行、中尾日菜子、
西村智翔、丸山怜音、水無月光梨

【料金】フリーカンパ制

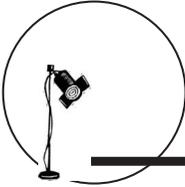
【予約】<http://ticket.corich.jp/apply/87468/>

【お問い合わせ】help.kodama@gmail.com

昔を今に戻せても
今はこのまま今のまま

そんなことにも気付かずに
1人でうとうとしていると
気づけば大人になっていた。

ぐるぐる回るこの夢の世に
なかなか終わりはやってこない



クラシックギター 独奏・重奏会 2017

早稲田大学ギタークラブ・早稲田大学ギターソサエティー・早稲田大学アンサンブルギター・慶應義塾大学クラシカルギタークラブの有志が出演します！

12月7日(木)

開場 18:40 開演 19:00

早稲田奉仕園 リバティーホール
(東京メトロ東西線「早稲田駅」下車、徒歩約7分)

入場は無料です！
途中入退場自由ですので、お気軽にお越しください！

主なプログラム(予定)

三千院
リベルタンゴ
11月のある日
アラビア風奇想曲
千本桜
Billie Jean
約束 ~ Beautiful Promise
他、演奏曲多数！

Contact us HP: <http://wasedaguitarclub.suppa.jp/>
From/To Mail: waseda-guitarclub@hotmail.co.jp
Check Out Our: HP, YouTube, Twitter, Facebook



早稲田大学ギタークラブ 第55回定期演奏会

12月24日(日)

開場 17:30 開演 18:00

川口総合文化センター
リア メインホール
(JR京浜東北線「川口駅」より徒歩約1分)

曲目
ペルシャの市場にて
セントポール組曲
Incredubus
アイネ・クライネ・ナハトムジーク

他多数

入場無料
お問合せ 早稲田大学ギタークラブ 090-8435-0521

いほ考える 君たちはどう生きるか」

黒くまん丸な瞳を大きく見開いてまっすぐ前を見ている少年の表紙が印象的な漫画版「君たちはどう生きるか」原作・吉野源三郎 漫画・羽賀翔一が8月24日の販売以降53万部の大ヒットとなっている。15歳の主人公の「コペル君」が叔父さんからの助言を受けながら、学校でのいじめや貧困、差別などの社会の矛盾と向き合い、自分はどう生きるのかを模索する姿が描かれている。



原作が書かれた1937年は日中戦争が開戦し、世界全体が戦争とファシズムの時代へと突入していく過程にあった。軍国主義に流されない眼を養って欲しいとの作者の思いが込められているといわれる本書がいま再び読まれているのは、現在の世界が新たな戦争とファシズムの危機を強めつつあることと決して無縁ではないだろう。

私も一年生の時にサークルの先輩から勧められて原作を読んだが、その時印象に残ったのは、冒頭に「コペル君」が「発見」した「社会網の目の法則」。デパートの屋上から下を見下ろした「コペル君」が行き交う人々を見て、「目をこらしても見えないような遠くにいる人たちだって、世の中という大きな流れをつくっている一部なんだ」ということに気づく。自分が着ているものも食べているものも誰かが作ってくれたものであり、自分は社会の中で生きていることを「コペル君」は自覚する。

「コペル君」は上級生のいじめに勇気を持って立ち向かう。この勇気は単なる倫理的なものではなく、しっかりとした社会観に支えられていると私は思う。混乱する時代に確固たる社会観を持つ。このことが時流に流されないために必要であると、本書はいまを生きる私たちに教えてくれる。

(国際問題研究会・蛹)